

報告

中国農業ビジネス ～中国で高品質な農作物を生産・販売する～

3月7日から9日まで、中国日本商会食品グループが実施する「青島市日系食品メーカー視察」に参加した。青島市は食品関係の日系企業が非常に多く、新潟市内企業である亀田製菓株式会社（本社新潟市江南区）も2003年に青島市に製造拠点として工場を設立し、現在は巨大市場中国での販路開拓に力を入れている。

中国で生産したものを日本で売るビジネスから、中国で生産したものを中国で売る、或いはミャンマーやカンボジアといった中国より人件費の安い国で生産したものをやはり中国で売るのが中国ビジネスの主流となってきている。

今回、視察先として訪問したのは山東省萊陽市（ライヨウ市）にあるアサヒビール、伊藤忠商事、住友化学が合弁で設立した農業会社「山東朝日緑源農業高新技術有限公司」（以下朝日緑源農業社）と「山東朝日緑源乳業有限公司」である。朝日緑源農業社は2006年に設立され、化学肥料に頼らない牛糞を用いた堆肥を利用することで地力を維持する「循環型農法」を実施している。乳牛を飼育しそこから得られる牛糞から堆肥を生産することで土壌を改良し、その良質な土壌から安心・安全でおいしい農作物、いちご、スイートコーン、ミニトマト等を生産する。そしてとうもろこしの茎などの副産物を再び乳牛の飼料として活用し、乳牛からおいしい牛乳を加工生産する。



いちご栽培ハウス。長くて向こう側にいる人が小さい…



上：レタス

下：紫キャベツ

無農薬、化学肥料不使用。作物に勢いがある。レタスはその場でちぎって試食。甘くてレタス特有の苦みがない。

乳牛から得られた牛乳は同じくアサヒビール、伊藤忠商事が合弁で設立した「山東朝日緑源乳業有限公司」が加工・販売しており、1リットルサイズで300円以上する高価な値段で売られているが、在中国の日本人だけでなく中国人富裕層も購入しており、食の安心・安全が注目されている中国で、日本の高度な農業技術やきめ細かい生産管理・品質管理により生産された農産物が高く評価されているのである。



広大な土地に広がる牛舎。1600頭の牛がのびのびしている。良質な乳が年間6150t搾乳される。



朝日緑源ブランド牛乳「唯品純牛乳」。日本の高度な技術を導入した成分無調整の牛乳。1リットル300円以上と高価だがよく売れている。

農作物に限らず、中国で食品を生産して販売する場合、様々な問題が発生する。まず、生産に必要な資材や設備がなかなか安定的に確保できないことだ。そしてせっかく品質の良いおいしい農産物や食品を生産しても、その品質・鮮度を保った状態で消費者に届けられるだけのコールドチェーンや販売チャンネルが確立されていないことだ。この問題には多くの日系食品メーカーが直面する。同社の場合、出資者である住友化学が資材調達の支援を行い、伊藤忠商事がサプライチェーン確立のサポートをしている。安心・安全でおいしい農産物の栽培から物流・販売まで一貫したフードシステムを構築しているのが同社の強みだ。また、このような日本式の高度な農業技術や生産管理を取り入れた農業を現地で行うにあたり、当然現地農家への技術指導、次世代の中国人農業指導者を育成しなければならず、同社は中国農業の発展そのものにも寄与していると言えるだろう。

日本で生産された Made in Japan の農産物は中国で非常に付加価値が高いが、残念ながら中国政府は日本から輸入できる農産物はりんご、梨、コメだけに限定している。自国の農業を保護するためだ。しかし、こうした日本式の農業技術を取り入れた農産物、Made in Japan ではなく Made by Japan の農産物を生産していくことに今後大きなチャンスがあるのではないだろうか。自動車や電気製品などはすでに Made by Japan が当たり前となっている。いずれ中国の農産物のうち、ブランド品とされるものが現地生産の Made by Japan となる日もそう遠くないかもしれない。(笠原)

近況

最近の北京

今、北京は春の訪れを待っている。3月8日、気温は22.2度に達し今年の最高気温を記録した。その後肌寒い日もあるが、行き交う人も着ているものがダウンのコートから薄いコートに変わってきた。

空が明るくなるのも早くなり、最近の日の出は6時半前後。

毎年この季節、ここ北京では全国人民代表大会(全人代)と中国政治協商会議の全体会議が開かれる。昨年秋の党大会で新しい指導層が発足し、今年の全人代はそれを受け政府や検察院などの人事を決める大切な会議だ。

今回の開催に当たり、一つの変化を見つけた。事務所が入居するビルの向かいに北京国際飯店が建つ。例年各地から集まる代表たちの指定宿泊先の一つになっていて、大会期間中の朝、ホテル駐車場から代表たちが乗る大型バスが次々と会場へ出発する風景を見ることができた。それが今年はない。

党大会終了後、「八項規定」が発表された。仕事のやり方を改め、人々と密接に連携する八項目の規定について、である。中身は、訪問調査に関して、基層末端への訪問調査は真相を深く理解し、経験を総括、問題を検討、困難を解決、仕事を指導し、群衆に学び、実践に学び、群衆と多く懇談し、幹部と多く腹を割って話し…と続く。その際は、接待を簡素化し、横断幕は飾らず、宴会を設けないなど質素儉約を説いている。

このようなことがあり、今年5つ星の北京国際飯店は代表たちの宿泊先から除外されたようだ。今までも似たような呼びかけはされてきたが、なかなか断ち切れないでいた。これからは違うかもしれない。旧正月の春節前、北京で高級レストランやホテルでの会食が減り、売りに上げに影響したという。

新聞などを見ると、人々はこの新しい規定を歓迎し、実際どう変わるのか注目しているようだ。(近藤)

北京スタッフ便

中国の“三八婦女節”

最近の中国は色々なイベントが多い。ハロウィン、クリスマス、バレンタイン、光棍節（独身者の祭典）、誕生日、出会い記念日、結婚記念日などなど、次から次へと終りが無いように感じる。いつからこんなに多くなったんだろう。

日本の3月3日は、桃の節句“ひな祭り”、女の子のすこやかな成長を祈る年中行事である。同じく女性のための日だが、中国では3月8日「女性の自由と平等、発展のため」を提唱することから始まった国際労働婦人デーを祝う。中国では“三八婦女節”とも言う。

1922年から“三八婦女節”を祝うことが始まり、1949年12月に中央人民政府政務院が毎年の3月8日を婦人デーに規定し、1950年3月8日北京で1回目の国際労働婦人デー記念大会が開催された。この日を国の記念日とし、女性は半

日休暇が取れる。

今年の“三八婦女

節”もほぼ例年と同様で、女性は半日休暇が取れ、同僚や友達と食事をし、ショッピングを楽しんだ。会社によって福利も違う。社内でイベントを行ったり、買い物券や食事券をあげたり、さまざまである。

この日を商機に、百貨店やショッピングセンターでは、バーゲンセールや女性限定の特典イベントなどが行われていて、女性で溢れている。家庭でも、この日は男性が食事を作り、掃除をし、まさに“女性のための日”である。

女性の自由と平等のための国際婦人デー“三八婦女節”は、仕事場、家庭、街など色んなところで“婦女節”を濃く感じられる日であった。(李)



“三八婦女節”を祝い、彩りを添えるデザイン



ショッピングセンター内の様子